

建設作業時における電力設備との離隔距離

電線類との離隔距離

電圧種別	電圧	離隔距離※1 (行政通達)	より安全な距離※2 (推奨)
高圧	6,600V	1.2m	2.0m
低圧	200V・100V	1.0m	2.0m

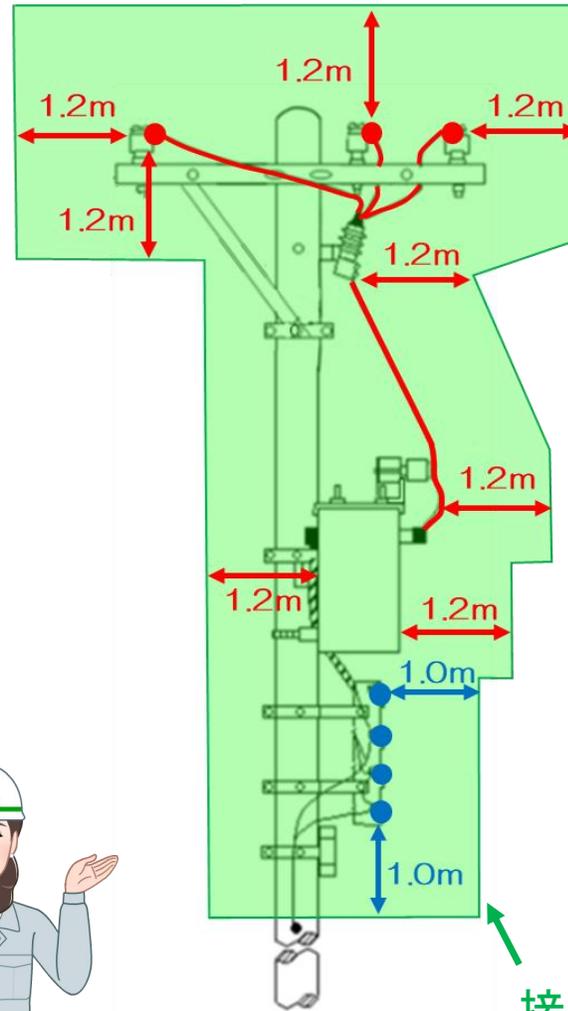
※1 離隔距離は、旧労働局通達「移動式クレーン等の送配電線への接触による感電災害の防止対策について」（基発第759号，昭和50年12月17日）の値を示しています。

※2 “ジブ揺れ” および “目測による誤差” を考慮した距離です。

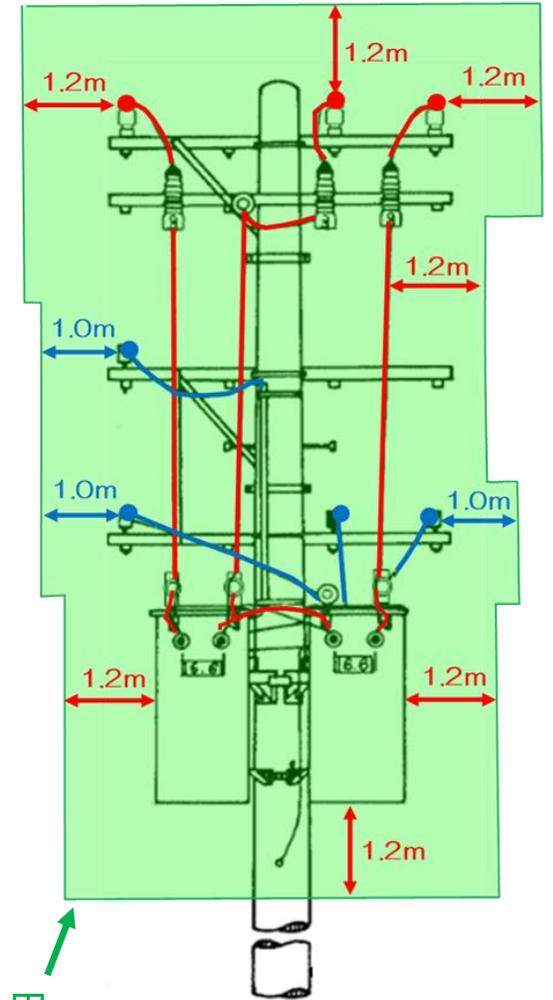
赤色は高圧線（6600V）、青色は低圧線（100V・200V）です。電気は常に流れておりますので、接触したら危険です。接近して作業をする場合は、必ず**建設用防護管の取付**をお願いいたします。



装柱パターン1（標準）



装柱パターン2



接近限界

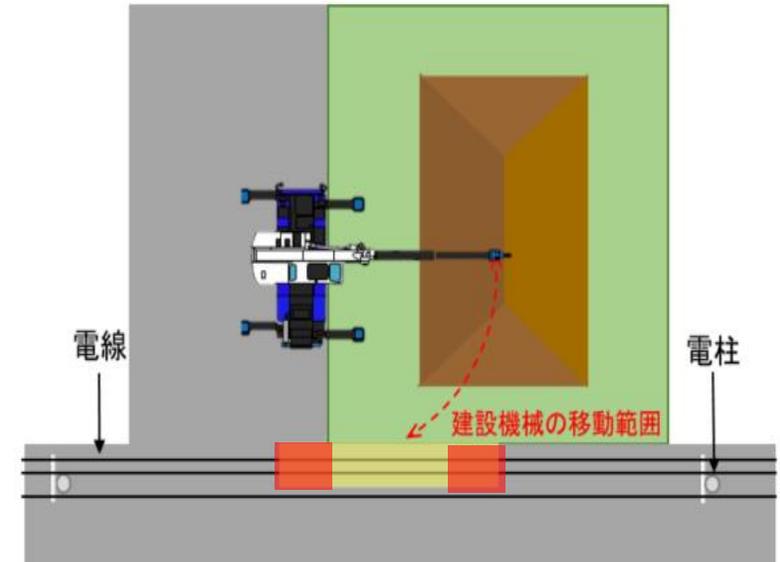
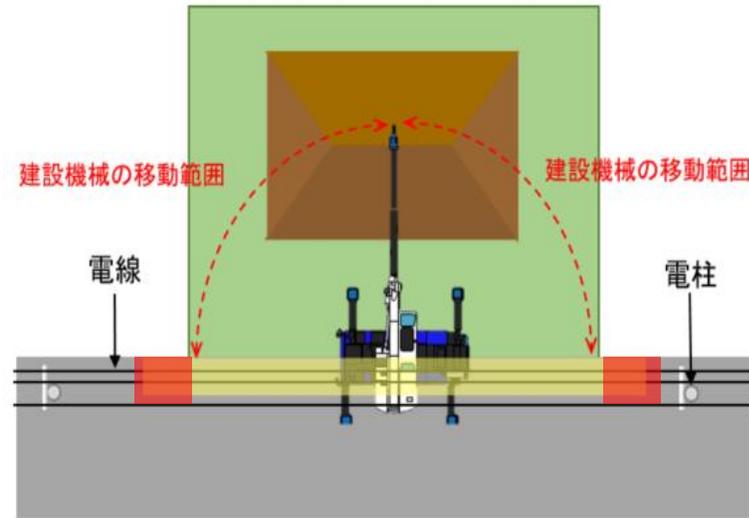
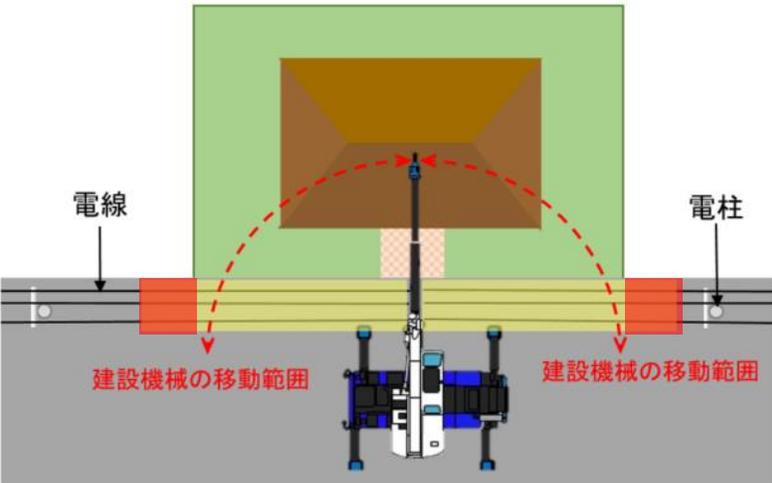
揺れ幅等を考慮した取付範囲について

- 建設機械の場合、移動範囲の“ジブ揺れ”による揺れ幅および“目測による誤差”等を考慮した取付範囲としております。
- 移動式重機の場合も同様の考え方としております。

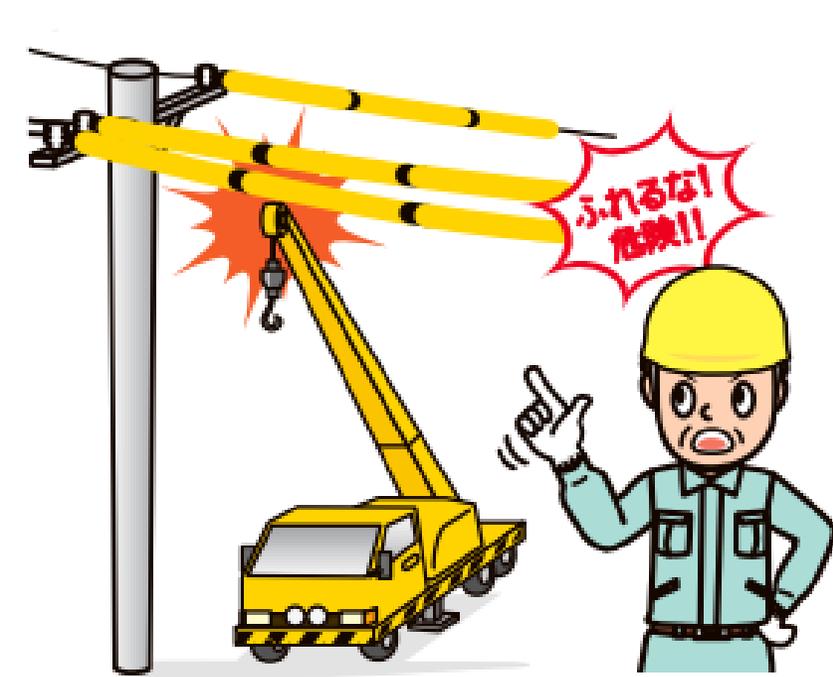
防護範囲
揺れ幅等を考慮した取付範囲

防護範囲
揺れ幅等を考慮した取付範囲

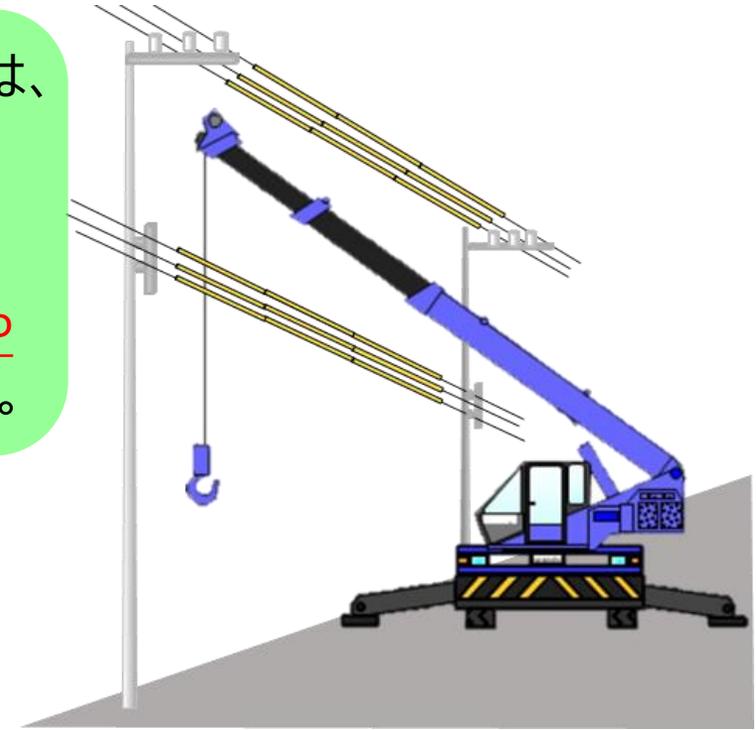
防護範囲
揺れ幅等を考慮した取付範囲



建設用防護管は「目印」です。

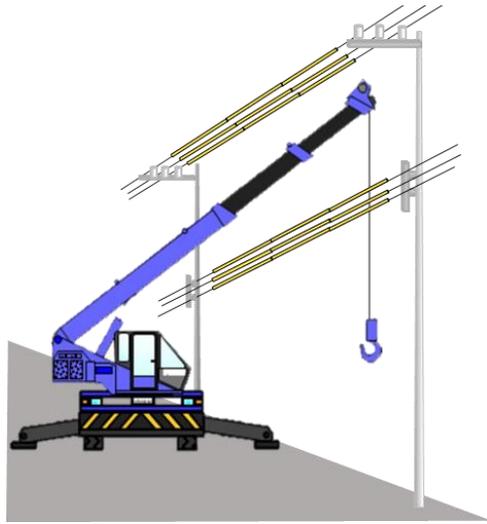


建設用防護管（防護シート等含む）は、配電線や通信線に接近して建設作業等を行う際の注意喚起（目印）として電線類に取付けるものです。絶対に作業者が触れたり建設用機械や工作物等が接触しないようにして下さい。

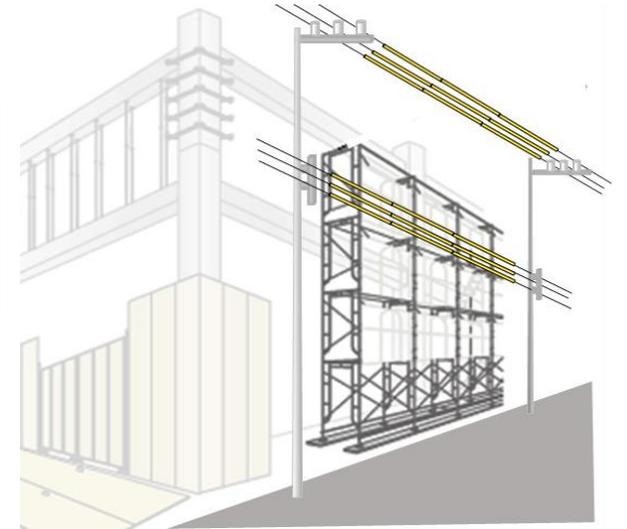


**防護管等の取付は、工事調整等により約3週間程度を要します。
電線の近くで作業する場合は、余裕を持って早めにご連絡ください。**

建設用防護管（防護シート等含む）の取付義務



労働安全衛生法や建設業法等では、事業者に対し、労働災害を防止するための必要な措置を義務づけております。配電設備近傍で作業する場合は、感電防止のために、**建設用防護管の取付**が必要になります。



建設用防護管取付範囲の判断目安として次ページより「具体的な防護方法の例」を確認いただき、移動式クレーン等の配電設備への接触による感電災害の防止対策を確実に実施ください。